

四半期報告書

(第131期第3四半期)

自 2019年10月1日

至 2019年12月31日

株式会社たけびし

京都市右京区西京極豆田町29番地

(E02851)

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

| | |
|---------------|---|
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 1 |

第2 事業の状況

| | |
|------------------------------------|---|
| 1 事業等のリスク | 2 |
| 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 2 |
| 3 経営上の重要な契約等 | 2 |

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

| | |
|-------------------------------|---|
| (1) 株式の総数等 | 3 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 3 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 3 |
| (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 3 |
| (5) 大株主の状況 | 3 |
| (6) 議決権の状況 | 4 |

| | |
|---------|---|
| 2 役員の状況 | 4 |
|---------|---|

第4 経理の状況 5

1 四半期連結財務諸表

| | |
|------------------------------|---|
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 9 |

| | |
|-------|----|
| 2 その他 | 14 |
|-------|----|

第二部 提出会社の保証会社等の情報 15

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

| | |
|------------|--|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 近畿財務局長 |
| 【提出日】 | 2020年2月10日 |
| 【四半期会計期間】 | 第131期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社たけびし |
| 【英訳名】 | TAKEBISHI CORPORATION |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 小倉 勇 |
| 【本店の所在の場所】 | 京都市右京区西京極豆田町29番地 |
| 【電話番号】 | 075（325）2111（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 上席常務執行役員 経営戦略室長 亀井 孝 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 京都市右京区西京極豆田町29番地 |
| 【電話番号】 | 075（325）2111（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 上席常務執行役員 経営戦略室長 亀井 孝 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社たけびし大阪支店 （大阪市北区堂島浜一丁目2番1号） 株式会社たけびし東京支店 （横浜市港北区新横浜三丁目18番16号） 株式会社たけびし名古屋支店 （名古屋市中村区名駅三丁目8番7号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第130期 第3四半期連結 累計期間 | 第131期 第3四半期連結 累計期間 | 第130期 |
|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 会計期間 | 自2018年4月1日 至2018年12月31日 | 自2019年4月1日 至2019年12月31日 | 自2018年4月1日 至2019年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 64,219 | 55,660 | 83,384 |
| 経常利益 (百万円) | 3,153 | 1,978 | 3,919 |
| 親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円) | 2,084 | 1,312 | 2,569 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 1,346 | 1,714 | 2,188 |
| 純資産額 (百万円) | 26,532 | 28,383 | 27,374 |
| 総資産額 (百万円) | 43,696 | 42,555 | 44,290 |
| 1株当たり四半期(当期)純利 益 (円) | 141.69 | 89.22 | 174.64 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円) | — | — | — |
| 自己資本比率 (%) | 60.7 | 66.7 | 61.8 |

| 回次 | 第130期 第3四半期連結 会計期間 | 第131期 第3四半期連結 会計期間 |
|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自2018年10月1日 至2018年12月31日 | 自2019年10月1日 至2019年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 55.45 | 22.81 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。
なお、重要事象等は存在していません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長期化する米中貿易摩擦の影響等を背景として、中国向けを中心とした輸出の減速に加え、生産調整や設備投資抑制の動きが一段と強まる等、製造業を中心として厳しい状況で推移しました。

このような状況下、当社グループは「製造業向けAI関連ビジネス」「新規大手家電メーカー向けODMビジネス」「医療機関向け診断装置ビジネス」等、更なる成長に向けたNEWビジネスの創造と拡大に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、前年度の大口特需案件の影響もあり、減収減益となる売上高556億60百万円（前年同期比13.3%減）、営業利益18億88百万円（前年同期比38.5%減）、経常利益19億78百万円（前年同期比37.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益13億12百万円（前年同期比37.0%減）となりました。

<セグメント別の状況>

産業機器システム分野においては、前年同期にあった産業用加工機の大口案件の影響に加え、半導体製造装置、衛生関連向け等でFA機器が低調に推移したことから、この部門全体の売上高は前年同期比22.7%の減となりました。

半導体・デバイス分野においては、セキュリティ関連向けODMビジネスや駆務関連向けデバイスが増加したものの、半導体製造装置、産業機器関連向け半導体が減少したことから、この部門全体の売上高は前年同期比6.7%の減となりました。

これらの結果、FA・デバイス事業においては、売上高369億39百万円（前年同期比17.6%減、構成比66.4%）、営業利益14億2百万円（前年同期比47.1%減）となりました。

社会インフラ分野においては、病院向け放射線治療装置やCT、MRI等の診断装置が増加したものの、前年同期にあった大口特高変電設備案件の影響により、この部門全体の売上高は前年同期比3.6%の減となりました。

情報通信分野では、情報システムがアミューズメント向けやWindows 7サポート終了に伴うOA機器更新需要等で増加したものの、主力の携帯電話が不採算店舗の閉店もあり減少したことから、この部門全体の売上高は前年同期比2.7%の減となりました。

これらの結果、社会・情報通信事業においては、売上高187億20百万円（前年同期比3.3%減、構成比33.6%）、営業利益4億85百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ17億34百万円減少し、425億55百万円となりました。これは主に、売上債権の減少27億26百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より27億43百万円減少し、141億71百万円となりました。これは主に、仕入債務の減少17億66百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より10億8百万円増加し、283億83百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加6億6百万円によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに決定し、又は締結した経営上の重要な契約等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 28,280,000 |
| 計 | 28,280,000 |

②【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (2020年2月10日) | 上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名 | 内容 |
|------|-------------------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------|
| 普通株式 | 14,798,600 | 14,798,600 | 株東京証券取引所 市場第一部 | 単元株式数100株 |
| 計 | 14,798,600 | 14,798,600 | — | — |

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総数 増減数(株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金増減 額(百万円) | 資本準備金残 高(百万円) |
|----------------------------|-------------------|------------------|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 2019年10月1日～ 2019年12月31日 | — | 14,798,600 | — | 2,554 | — | 3,056 |

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

| 区分 | 株式数（株） | 議決権の数（個） | 内容 |
|----------------|-----------------|----------|---------------------------|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式（自己株式等） | — | — | — |
| 議決権制限株式（その他） | — | — | — |
| 完全議決権株式（自己株式等） | 普通株式 83,800 | — | 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 |
| 完全議決権株式（その他） | 普通株式 14,711,300 | 147,113 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 3,500 | — | — |
| 発行済株式総数 | 14,798,600 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 147,113 | — |

（注）1. 「完全議決権株式（自己株式等）」欄は、全て当社所有の自己株式であります。

2. 「完全議決権株式（その他）」欄には証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。

なお「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数（株） | 他人名義所有株式数（株） | 所有株式数の合計（株） | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％） |
|------------|------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 株式会社たけびし | 京都市右京区西京極豆田町29番地 | 83,800 | — | 83,800 | 0.57 |
| 計 | — | 83,800 | — | 83,800 | 0.57 |

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2019年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,809 | 5,731 |
| 受取手形及び売掛金 | ※ 18,719 | ※ 15,228 |
| 電子記録債権 | ※ 4,696 | ※ 5,461 |
| 有価証券 | 19 | - |
| 商品 | 6,226 | 5,377 |
| 仕掛品 | 27 | 112 |
| その他 | 776 | 591 |
| 貸倒引当金 | △14 | △13 |
| 流動資産合計 | 35,260 | 32,488 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 1,111 | 1,102 |
| 土地 | 1,833 | 1,833 |
| その他（純額） | 106 | 90 |
| 有形固定資産合計 | 3,051 | 3,026 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 63 | 68 |
| のれん | - | 43 |
| その他 | 20 | 20 |
| 無形固定資産合計 | 83 | 132 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 4,873 | 5,531 |
| 繰延税金資産 | 155 | 106 |
| その他 | 872 | 1,282 |
| 貸倒引当金 | △6 | △12 |
| 投資その他の資産合計 | 5,894 | 6,907 |
| 固定資産合計 | 9,029 | 10,066 |
| 資産合計 | 44,290 | 42,555 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2019年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 電子記録債務 | ※ 1,526 | ※ 1,586 |
| 買掛金 | ※ 9,514 | ※ 7,687 |
| 短期借入金 | 1,391 | 1,433 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | — | 100 |
| 未払金 | 1,113 | 714 |
| 未払法人税等 | 830 | 6 |
| 賞与引当金 | 610 | 340 |
| 役員賞与引当金 | — | 126 |
| その他 | 526 | 670 |
| 流動負債合計 | 15,514 | 12,666 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 100 | — |
| 長期末払金 | 102 | 102 |
| 繰延税金負債 | 452 | 789 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 7 | 7 |
| 役員退職慰労引当金 | 25 | 34 |
| 退職給付に係る負債 | 512 | 526 |
| 厚生年金基金解散損失引当金 | 157 | — |
| 資産除去債務 | 27 | 28 |
| その他 | 15 | 15 |
| 固定負債合計 | 1,400 | 1,505 |
| 負債合計 | 16,915 | 14,171 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,554 | 2,554 |
| 資本剰余金 | 3,133 | 3,133 |
| 利益剰余金 | 20,661 | 21,267 |
| 自己株式 | △23 | △23 |
| 株主資本合計 | 26,325 | 26,932 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,136 | 2,599 |
| 土地再評価差額金 | △1,135 | △1,135 |
| 為替換算調整勘定 | 28 | △29 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 19 | 17 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,048 | 1,451 |
| 純資産合計 | 27,374 | 28,383 |
| 負債純資産合計 | 44,290 | 42,555 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 64,219 | 55,660 |
| 売上原価 | 55,375 | 48,128 |
| 売上総利益 | 8,844 | 7,531 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,775 | 5,643 |
| 営業利益 | 3,069 | 1,888 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 3 | 4 |
| 受取配当金 | 70 | 82 |
| 仕入割引 | 25 | 19 |
| 受取賃貸料 | 42 | 44 |
| その他 | 45 | 24 |
| 営業外収益合計 | 188 | 175 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 7 | 5 |
| 売上割引 | 74 | 56 |
| 賃貸収入原価 | 21 | 21 |
| その他 | 1 | 1 |
| 営業外費用合計 | 104 | 85 |
| 経常利益 | 3,153 | 1,978 |
| 特別利益 | | |
| 厚生年金基金解散損失引当金戻入益 | — | 39 |
| その他 | — | 0 |
| 特別利益合計 | — | 39 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 10 | 0 |
| 投資有価証券評価損 | — | 27 |
| 特別損失合計 | 10 | 28 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 3,142 | 1,989 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 901 | 495 |
| 法人税等調整額 | 156 | 181 |
| 法人税等合計 | 1,057 | 676 |
| 四半期純利益 | 2,084 | 1,312 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,084 | 1,312 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 2,084 | 1,312 |
| その他の包括利益 | | |
| 其他有価証券評価差額金 | △718 | 462 |
| 為替換算調整勘定 | △21 | △58 |
| 退職給付に係る調整額 | 2 | △2 |
| その他の包括利益合計 | △737 | 402 |
| 四半期包括利益 | 1,346 | 1,714 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,346 | 1,714 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — | — |

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社ファーストブレインの株式を取得したことにより、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(厚生年金基金解散時負担金の確定)

当社及び国内連結子会社の一部は、この度、加入しておりました「京都機械金属厚生年金基金」(総合型)の代表清算人より「厚生年金基金解散時負担金額」確定の通知を受け、2019年8月30日に支払いを完了いたしました。

これにより、第2四半期連結会計期間において、同基金解散に伴う損失見込額として計上しておりました固定負債の厚生年金基金解散損失引当金157百万円を取り崩し、確定した支払額との差額を厚生年金基金解散損失引当金戻入益39百万円として特別利益に計上しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 期末日満期手形等の会計処理は、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であり、当第3四半期連結会計期間の期末日満期手形等の金額は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2019年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形及び売掛金 | 537百万円 | 591百万円 |
| 電子記録債権 | 636百万円 | 400百万円 |
| 電子記録債務 | 144百万円 | 777百万円 |
| 買掛金 | 534百万円 | 267百万円 |

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|---------|--|--|
| 減価償却費 | 123百万円 | 138百万円 |
| のれんの償却額 | －百万円 | 4百万円 |

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自2018年4月1日 至2018年12月31日）

配当に関する事項

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|-----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 2018年4月27日 取締役会 | 普通株式 | 309 | 21.0 | 2018年3月31日 | 2018年6月11日 | 利益剰余金 |
| 2018年10月31日 取締役会 | 普通株式 | 353 | 24.0 | 2018年9月30日 | 2018年12月3日 | 利益剰余金 |

II 当第3四半期連結累計期間（自2019年4月1日 至2019年12月31日）

配当に関する事項

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|-----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 2019年4月26日 取締役会 | 普通株式 | 353 | 24.0 | 2019年3月31日 | 2019年6月10日 | 利益剰余金 |
| 2019年10月31日 取締役会 | 普通株式 | 353 | 24.0 | 2019年9月30日 | 2019年12月2日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | FA・デバイス事業 | 社会・情報通信事業 | 合計 |
|-----------------------|-----------|-----------|--------|
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 44,853 | 19,366 | 64,219 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 0 | — | 0 |
| 計 | 44,854 | 19,366 | 64,219 |
| セグメント利益 | 2,649 | 419 | 3,069 |

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-------|
| 報告セグメント計 | 3,069 |
| セグメント間取引消去 | — |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 3,069 |

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | FA・デバイス事業 | 社会・情報通信事業 | 合計 |
|-----------------------|-----------|-----------|--------|
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 36,939 | 18,720 | 55,660 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 0 | — | 0 |
| 計 | 36,939 | 18,720 | 55,660 |
| セグメント利益 | 1,402 | 485 | 1,888 |

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-------|
| 報告セグメント計 | 1,888 |
| セグメント間取引消去 | — |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 1,888 |

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|----------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益 | 141円69銭 | 89円22銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円) | 2,084 | 1,312 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益(百万円) | 2,084 | 1,312 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 14,714 | 14,714 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2019年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………353百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………24円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2019年12月2日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

株式会社たけびし

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 尾仲伸之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野出唯知 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社たけびしの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社たけびし及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。